KARIBIB の回想

2023 年度１次隊/数学教育/渡辺 崇人　　2023 年 11 月 22 日　Vol.5

今日は、自分の配属先について紹介します。

写真１: Spring Day という、日本の春分の日に相当する日で、ナミビアは南半球であることから９月になります。女性は花柄の衣装を着飾って、春の訪れをお祝いします。

写真２: トップページの写真と同じく Heritage Day で撮った一枚です。

自身の配属先について、トップページの文にも掲載させていただきましたが温かい方が多く、ここに赴任できてよかったと感じられる日々を送れています。そんな配属先の

いいなと思うところ・感謝しているところ

① 毎日が笑顔で溢れていること：もちろん生徒を指導する時はきっちり指導しますが、例えば日本だと淡々と進行される会議等でもジョークを言い合い、毎日のように互いに笑い合っています。７割程の日常会話にはついていけませんが(恥)、それでも楽しい雰囲気は味わえます。急に歌いだしたり、踊りだしたり愉快な方が多いです。陰湿さという言葉とは無関係な職場です。

② 外国人の自分にも敬意をもって接してくれること：アジア人はよく海外で差別に遭うと聞いていたため、正直ここに来るまでは多少なりともそういった目には遭遇するだろうと覚悟していました。しかし実際は、配属先ではそのようなことは全くなく、逆に“If you have any troubles, you can talk to me anytime.（何か困ったことがあったら、いつでも話していいんだからね。）”と温かい言葉をかけてくれ、現にどの方も分からないことは丁寧に教えてくれます。また、以前同僚との会話の中でボソッと「ローカルフードを食べてみたい」と呟いたところ、翌朝のミーティングでそのことについて取り上げ「Taka（＝自分）がローカルフードを食べたいって言っているか

ら、〇月△日に各々料理を持ち寄ろう」とわざわざ企画してくれるほど色々やってくださいます（この日のこともまた別日に触れますね）。

③ 校長先生を中心にまとまっていること：写真１の最後尾左の男性の一段下にいらっしゃるカチューシャを付けられた女性が校長先生の Andimba（アンディンバ）先生です。この方は本当に仕事熱心で、例えば教員が長期の休みに入っても、最高学年の補習がある日は毎日学校にいらっしゃいました。また、学習態度に問題がある生徒がいればその都度保護者を呼び、校長室で該当生徒・保護者と話をされたり、放課後最後まで残って学校業務をやられていたりとその仕事振りや人間性に尊敬の念を隠しえません。そしてそのようなお人柄を他の先生方も分かっているため、校長先生を中心に先生方が団結しています。彼女は我々を表す際によく“Team”という言葉を用いていますが、本当にその言葉にふさわしい職場だと思います。

④ 必ず謝意を伝えてくれること：例えばある先生が集会で挨拶をした際に「〇〇先生、良い挨拶をありがとう」と次に挨拶する先生が伝えたり、他の仕事をやった際にも「本当にありがとうね」と言ってくれたりと「あなたの仕事なんだからやって当たり前でしょ？」という感覚がありません。これは元々の国民性もあるのかもしれませんが帰国後も見習わなければならないと思いました。こういった仕事中のほんの些細な声掛けが、そのやりがいを 10 にも 100 にも変えるものだなと再認識できました。

逆に驚いたこと

日本のほとんどの高校と同じように生徒指導に力を入れていること

男子の髪型（坊主）、女子の髪型（長い子は上で束ねる）、白または紺の靴下に指定の靴で登校する、スラックスをくるぶし近くで曲げない、欠席と遅刻をしない.....等々

になります。いずれにせよ、言葉がすべて通じない中でも、やりがいをもって仕事に取り組める環境を作っていただいていること、帰国後も大切にしたいと思えることに気づかせてくれたことに感謝しています。「この人たちのために働きたい」と思える労働環境です。

生徒の様子

写真３: 授業後に撮った一枚

写真４: 毎週月曜日の朝にある集会の一コマ

アフリカは陽気な人が多いというイメージがあると思いますが、生徒もだいたいはその通りです。ただ、大人も含めて恥ずかしがりな人、物静かな人もいて性格は様々で、多様な人がいるという点では日本とそう違わないというのが自身の所感です。しかし、物静か

な生徒でも「自分」をもっている生徒は多いと感じました。例えば日本だと、物事に真面目に取り組んでいると周りから揶揄されるからという理由で、そういった生徒が自身を押し殺したり、必要以上に周りの目を気にしたりすることが往々にしてあると思います。ただ、こちらでは真面目に取り組む生徒は「自分が必要だから」やるのであって、そこに他人の目など関係ないと考える者が多いように感じます。現に授業中に騒がしい生徒に対し「うるさい。静かにして。」と、たとえそれが自分一人でも注意することを躊躇いません。この“必要以上に他人を介在させず自分の必要なことをやる＝「自分」をもつ”という姿勢の重要性は、帰国後に日本の高校生には特に伝えたいです。

その他にも多くの人に共通していることが“写真が好き”ということです。写真３のように写真を撮るよと言うと喜んで集まってきます。中にはポーズを変えてモデルのように何枚も要求してくる生徒も（大人も）います。お陰で、生徒の写真だけで 1,000 枚は超えました。またどの生徒も非常に歌が上手いです。弊校は毎週月曜日の朝に集会を行いますが、そこでは必ず冒頭で国歌やその他歌の斉唱をします。歌が上手い彼らの歌を聴くことが何より好きで、この時間は一週間の中でも楽しみな時間の一つです（写真４）(^^♪。

ナミビアの教育制度

最後にナミビアの教育制度について簡単に紹介します。

《小学校～高校までの対照表》↙**正確には Gr0 も存在するが、義務教育ではない。**

迎える年齢	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
日本	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
ナミビア	Gr1	Gr2	Gr3	Gr4	Gr5	Gr6	Gr7	Gr8	Gr9	Gr10	Gr11	Gr12
	Primary School							Junior		Senior		
								Secondary School				

表中の Gr は Grade の略で学年を表し、ナミビアでは進学後も学年のカウントは累積されていきます。日本と同じく６歳になると Primary School（プライマリースクール）と呼ばれる小学校へ入学します（ただし先着順で、全員に入学の保証があるわけではなく、ここでも待機児童問題が社会問題の一つとなっています）。そこで７年間学習した後、日本のように進学しますが、異なる点は中学/高校と分かれず、一括りにされることです。それを Secondary School（セカンダリースクール）と言います。Secondary School では特に、Gr8・９の課程を Junior Secondary（ジュニアセカンダリー）、Gr10～12 の課程を Senior Secondary（シニアセカンダリー）と言います。学年末（日本と異なり１月始まりの 12 月終わりで弊校は二学期制を採用）に後期の小テスト・課題・最終試験の結果を合算・圧縮し 100 点満点に換算後、その最終スコアが 80 以上で A、70 台で B、60 台でC、50 台でD、40 台でE、39 以下でU（単位不認定）となり、（ア）３科目以上でU　もしくは　（イ）英語でU を取ってしまうと次の学年に進級できず、留年となります。Junior Secondary と Senior Secondary の細かい違いと卒業後の進路ついては卒業式の様子を取り上げる回で再度詳しく説明させていただきます。弊校は G8～G11 までの４学年が３クラスずつに分かれており、１クラス平均 40 名ほどです。他の Secondary School と比べると小規模ですが、vol.4 で記述した通り生徒の数は年々増えています。

次回：自分の一日の様子について紹介します！